

高齢者における衣服情報期待度について
安田女子短大 楠 幹江

<目的> 快適で合理的な衣生活を営むためには、種々な情報を収集し、最適な方法を検討することが大切である。高齢化、情報化が進む現在において、情報伝達の果たす役割は大きい。情報収集は、加齢に伴って困難が増すことが想像されるが、衣服情報について検討した報告は、あまりみられない。そこで、高齢者がメディアに対して、どの程度の期待度をもっているのか、実態調査を行った。

<方法> 調査対象者は65歳以上の高齢者とし、質問紙による面接聞き取り法を実施した。調査時期は1994年12月14日～1995年1月9日である。有効回収数 531、回収率87.0%であった。調査内容は、対象者の個人的要因（年齢、性別、居住地、学歴、生涯学習への参加など）、衣服情報（着心地、保温性、着脱、洗濯、デザイン）、メディア（週刊誌・雑誌、テレビ、新聞、情報紙、ラジオ、本、ビデオテープ、カセットテープ）などである。データの集計・分析には、単純集計、クロス集計、相関分析などを行った。

<結果> 1. 各メディアに対する衣服情報期待度は、テレビが最も高く、カセットテープが最も低かった。しかし、テレビの期待度は低く、各衣服情報の平均値は2.91～3.04であった。（5段階評定法）2. 「おしゃれに関心がある」と関連がある個人的要因は、年齢、性別、学歴、図書館の利用、講演会の参加、趣味であった。